

えほん  世界のおはなし

みにくいあひるの子

バーナデット・ワッツ・絵 間所ひさこ・文



〈著者紹介〉

バーナデット・ワッツ (Bernadette Watts)

1942年、イギリス生まれ。ケント州メイドストーンの美術学校で学ぶ。グリム童話のイラストレーションを多く手がけ、日本でもバーナデットコレクション(西村書店／全13巻)、「赤ずきん」(岩波書店)など数多く出版されている。創作作品も「ハネスうさぎのゆうびん屋さん」(講談社)などがある。

間所ひさこ (まどころ ひさこ)

1938年、東京生まれ。都立墨田川高校卒業。詩と音楽の会会員。少年詩集「山が近い日」(理論社)で第13回野間児童文芸賞推奨を受賞。主な作品に「ころわん」シリーズ(ひさかたチャイルド)、「10ぴきのかえる」シリーズ(PHP研究所)、「チャコのアルバム」(草炎社)などがある。



えほん⁵世界のおはなし⑤
みにくいあひるの子

N.D.C.726 32p 26cm

2000年1月1日 第1刷発行

絵◎バーナデット・ワッツ

文◎間所ひさこ (まどころ ひさこ)

A D◎坂川栄治

デザイン◎藤田知子 (坂川事務所)

発行者◎野間佐和子

発行所◎株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112-8001

電話／東京03-5395-3534 (編集部)

東京03-5395-3625 (販売部)

東京03-5395-3615 (製作部)



印刷所◎共同印刷株式会社

製本所◎大村製本株式会社

THE UGLY DUCKLING by Hans Christian Andersen, illustrated by Bernadette Watts.

Original German language edition published by Nord-Süd Verlag AG, Switzerland.

Copyright © 2000 Nord-Süd Verlag AG, Gossau Zürich, Switzerland.

Japanese edition originally published in 2000 by Kodansha Ltd. by arrangement with Nord-Süd Verlag AG for the Celebration of Kodansha's 90th Anniversary.

Japanese text ©Hisako Madokoro 2000 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。送料は小社負担にておとりかえいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは児童局幼児図書出版部あてにお願いいたします。

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。定価はカバーに表示してあります。

ISBN 4-06-267055-0 (児幼)

えほん  世界のおはなし

みにくいあひるの子

バーナデット・ワッツ・絵 間所ひさこ・文

江苏工业学院图书馆
藏书章





みにくい あひるの子

ふかい ながれに **かこ**まれた、ふるい やしきが ありました。

その ながれの **き**しで、あひるが、たまごを あたためて いました。

ひとつ。また、ひとつ。

たまごが われて、あひるの ひよこたちが つぎつぎと うまれました。

「^{びよ}ピヨ、^{びよ}ピヨ、^{びよ}ピヨ。」

「よのなかって、ずいぶん、ひろいんだねえ。」

はじめて そとに でた ひよこたちは、^{おお}大さわぎです。

「あら。いちばん ^{おお}大きい たまごが、まだ のこって いるわ。」

おかあさんあひるが、すの ^{なか}中に すわりなおした ところへ、としよりの
あひるが ようすを みに きました。

「それは きっと、しちめんちょうの たまごだ。ほうって おきなさいよ。」

「でも、もう すこし、ようすを みて いて やりますわ。」







そのうちに、やっと、さいごの たまごが われました。

「まあ！ なんて ^{おお}大きな ひよこでしょう。」

おかあさんは、うまれた ひよこを つくづくと ながめました。

「それに、ほかの ^こ子たちと、ちっとも にて いないわ。

もしかしたら、ほんとうに、しちめんちょうかも……。

いいわ、^{みず}水の ^{なか}中に ^い入れれば、すぐ わかる ことだから。」





つぎの ^ひ日、おかあさんあひるは、ひよこたちをつれて、
^{かわ}川へ いました。

ひよこたちは、おかあさんの あとから ^{みず}水の ^{なか}中へ、^{ちゃぽん}チャポン、^{ちゃぽん}チャポン。

いちばん ^{おお}大きな ひよこも、いっしょに すいすい およぎます。

「よかった……。やっぱり、しちめんちょうなんかじゃ なかったんだわ。」



おかあさんあひると ひよこたちは、ほかの あひるたちの
いる、えさばに やって きました。

すると、すぐに、^{いち}1わの あひるが とんで きて、いちばん
^{おお}大きな ひよこの くびに かみつきました。

「^{がー}ガー、^{がー}ガー、なんて ^{おお}大きくて、へんな やつ！」

「ほんとうにねえ。ほかの お^こ子さんは みんな、きりょうよしなのに。」
と、べつの としとった あひるが いいました。

「ええ、たしかに この ^こ子は、きりょうよしでは ありません。
でも、^き気だてが いいし、およぎも じょうずなんですよ。」







おかあさんあひるは いっしょうけんめい かばって くれましたが、
いちばん ^{おお}大きな あひるの ^こ子は、だれからも いじめられました。



にわとりは つついたり、かみついたり するし、しちめんちょうは
からだを ふくらませて、おどします。

ほかの きょうだいも、いじわるを して、なかまはずれに します。
「みにくい やつ！ おまえなんか、ねこにでも くわれて しまえ！」

とうとう、あひるの ^こ子は、いけがきを
とびこえて、そとへ にげだしました。

そして、やぶを とおりぬけ、のみちを はしって、
のがもたちの いる ^{おお}大きな ぬまに やって きました。

「やあ、きみは いったい、なにものだい？」

つぎの あさ、のがもたちが、あひるの ^こ子 を みつけて、たずねました。

「きみって、なんて みつともないんだ。まあ、そんな ことは
どうでも いいけどね。」



